

「滋賀県基本構想審議会」および「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり 推進協議会」での主な意見の概要

〔基本構想審議会〕

- ・「20～24 歳の社会増減を 0（ゼロ）にする」は目標に掲げるべきことなのか。若者が県外に出て勉強や活動をしたと思うのは自然なことであり、そうした若者が将来滋賀県に戻ってくるようにすることが大切である。
- ・人口目標における社会増減 0（ゼロ）を 20～24 歳に限定すると、若者を囲い込もうとしていると誤解される恐れがある。
- ・財政支援、規制、省庁的な措置、条例での支援など、どのような観点でプロジェクトに取り組むかをはっきりさせないと、民間との役割分担が明確にならない。
- ・市町においても総合戦略がつくられることから、県と市町との整合性・連携性が強く問われる。県しかできないこと、市町しかできないことにそれぞれ特化し、相互が補完的になることが求められる。

〔ひと協議会〕

- ・一人親家庭に対する安定した就労が確保できる就業支援ができないか。経済状況が厳しく、教育費などの面で教育格差につながっている。
- ・小学校から福祉教育を行うことにより、若者の医療・介護従事者を増やすことが必要。
- ・地域の担い手として高齢者が活躍することが、医療・介護従事者の充足につながるのではないか。
- ・介護ボランティアなど、高齢者の社会参画の指標を入れるべき。
- ・K P I を設定した根拠、目標達成までのプロセスやその効果などを説明し、理解を得られなければ、目指す将来像は実現しない。
- ・親も支援されるだけでなく、子育てやまちづくりに関わっていきたいと考えている。そうした協働の視点を重視し、「ともに」という書きぶりや前提の一文があればいい。

〔まち協議会〕

- ・若い世代も一緒に移住するのは困難である。CCRC の推進により高齢者が移住した際に、家族もときどき来て滞在できる別荘を用意するような取組を進めてはどうか。
- ・市域外の交通ネットワーク、公共交通の維持が重要であり、主な施策に入れるべき。
- ・「山～里～湖」農山漁村つながりプロジェクト」のねらいと K P I 「新規就農者数」が合っていないのではないか。
- ・景観については、環境ではなく、景観保全や景観形成の切り口からもう少し踏み込んだ表現にすべき。
- ・人口減少下で経済活性化を図るためには、交流人口の拡大が重要なテーマになることから、プロジェクトの中に言葉として入れるべき。

- ・ K P I [人口1万人当たりの刑法犯認知件数を全国平均以下の達成] については、一度達成したらいいのか、継続的に達成するののかという点からすると、この書き方・目標値はおかしい。
- ・ 自主防犯ボランティアの組織率など、防犯対策を進めるために必要な目標を K P I として掲げるべき。
- ・ 交通関係の記述がないので、交通事故対策などを付け加えてほしい。

〔しごと協議会〕

- ・ 豊かさの見える化をすることが必要である。どのように見える化をするかを検討していただきたい。
- ・ ソーシャルビジネスという言葉では、やや守備範囲が狭まるので、コミュニティビジネスとソーシャルビジネスを併記していただきたい。
- ・ K P I に「しが水環境ビジネス推進フォーラム」への参加企業・団体数をあげているが、これだけでは実際の成果があがるかわからない。民間のビジネスマッチングフェアでは、商談が何件で成約が何件であったかが把握されている。
- ・ 観光客やインバウンド向けの長期滞在型国民宿舎のようなものを、第三セクターが運営するような形で作ってはどうか。国体もにらんで選手村を作り、そこにインバウンドのお客様も泊まれるようにすれば、誘客に役立つのではないか。
- ・ アジア向けに数か国語で書かれたパンフレットを作ることや、ボランティアガイドの養成についても具体例として示してほしい。
- ・ 地場産業や手仕事を若い人に理解してもらえるような体験など、今あるものをいかに新しく見せるかというところにも力を入れていただきたい。
- ・ 空き家リノベーションについて、活用しやすいシェアハウスなどの新しい使われ方に対して、住宅メーカーへの補助などを検討してはどうか。
- ・ 農業がおしゃれでカッコいいと思えるような工夫をして発信し、滋賀県の宝物である自然をどのように活かしてお金を落としてもらおうかを考えることで、滋賀県にしかない経済が発展していき、結果として幸せにつながる。
- ・ 使われていない古民家に泊まることや、農業体験をしたい人に休耕田を利用して体験していただけるようにしてはどうか。
- ・ 企業誘致をするために、固定資産税の優遇などの施策に加えて、何か工夫をできないか。